



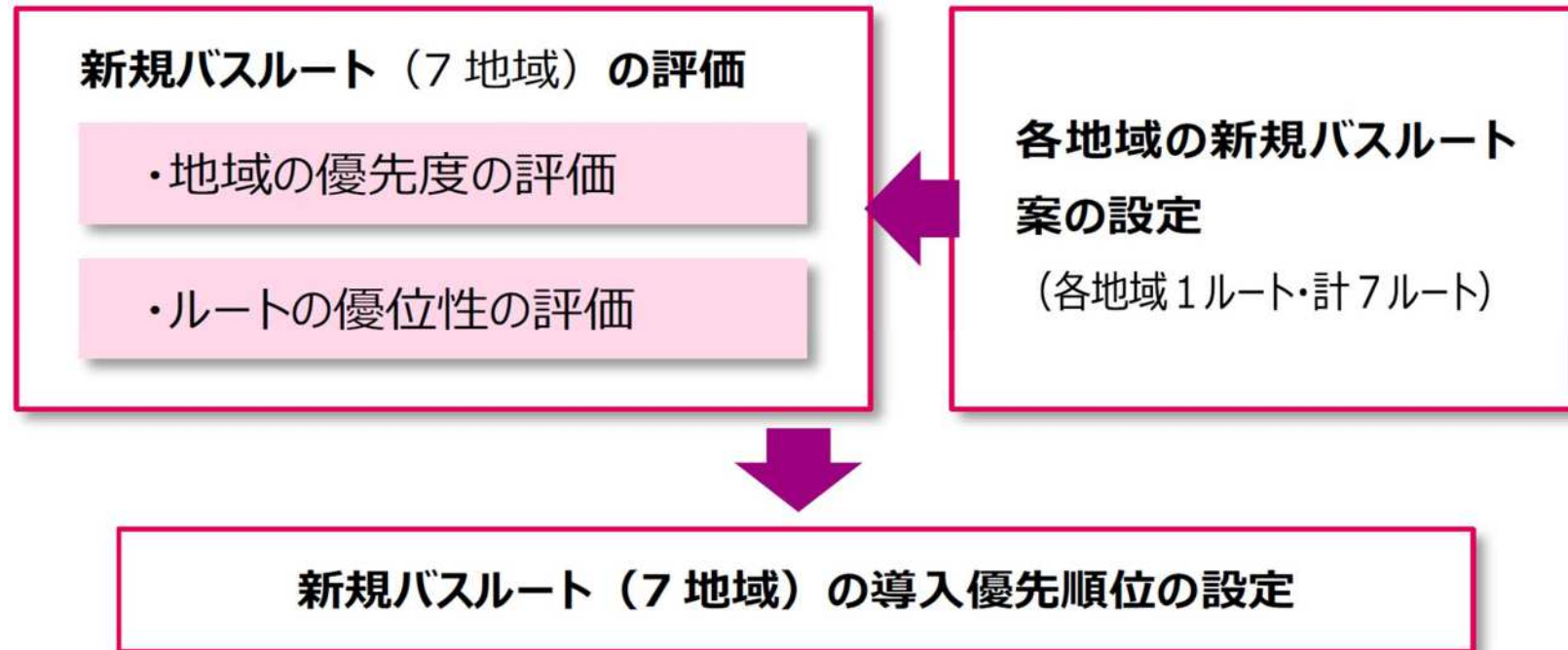
赤羽西地域への新たな地域公共交通導入 について

目次

①	<u>北区地域公共交通計画の考え方について</u>	・・・P 3
②	<u>見直しの方向性について</u>	・・・P 9
③	<u>見直しルート（素案）について</u>	・・・P10
④	<u>地元住民の意向聴取について</u>	・・・P11
⑤	<u>アンケート調査結果について</u>	・・・P13
⑥	<u>ルート選定について</u>	・・・P16
⑦	<u>車両選定について</u>	・・・P18
⑧	<u>ルート案について</u>	・・・P20
⑨	<u>今後の予定</u>	・・・P23

①北区地域公共交通計画の考え方

●コミュニティバス新規路線導入優先順位の考え方



[総合点]

	浮間	赤羽西	赤羽東	王子西	王子東	滝野川西	滝野川東
地域の優先度	7点	6点	3点	2点	5点	4点	1点
ルートの優位性	27点	27点	27点	25点	27点	27点	25点
総合点	34点	33点	30点	27点	32点	31点	26点

①北区地域公共交通計画の考え方

●地域の優先度の評価視点

視点1 ●公共交通機能を向上する（不足を補完する）。

公共交通機能を向上すべき箇所の面積、主要駅までの距離等の面から、公共交通機能を向上する必要性を評価の視点としました。



視点2 ●高齢者等の移動を支援する。

高齢者人口、高齢者のみ世帯、運転しない高齢者等の状況から、高齢者に対する支援の必要性を評価の視点としました。



視点3 ●大きい高低差（区の特徴）に対応する。

斜面が多いなど坂道を移動する生活環境の面から、支援の必要性を評価の視点としました。



視点4 ●日々の暮らしを充実、まちの賑わいを創出する。

仕事で出かける居住者や、主要施設まで出かける日々の暮らしの充実、及び集客等によるまちの賑わいに寄与する可能性を評価の視点としました。



視点5 ●公共交通に対する地域の意識・きずなづくりを支援する。

コミュニティバスに対する利用意向の高さ、地域で公共交通を支える意識の高さ等の面から、地域の意識・きずなづくりへの支援の有効性を評価の視点としました。



①北区地域公共交通計画の考え方

●ルートの優位性の評価視点

視点1 ●運行の実現による効果大きい。

公共交通機能の向上、高齢者等への移動支援、大きい高低差への対応、主要駅へのアクセス等の面で、メリットが大きいルート、また、定時性や鉄道との乗り継ぎの利便性が確保できるルートであることを評価の視点としました。



視点2 ●運行の実現への課題が比較的少ない。

既往のバス路線との調整、ルート上の道路状況等に関する課題が少ないルートであることを評価の視点と評価しました。



視点3 ●将来にわたる事業の持続可能性が高い。

収支率がある程度確保されるルート、事業者が運行・運営を継続しやすいルートであることを評価の視点としました。



①北区地域公共交通計画の考え方

●ルート案設定の考え方

①北区コミュニティバス導入の基本的な視点(コンセプト)を考慮する

- ・公共交通機能の向上
- ・高齢者等の移動の支援
- ・大きな高低差への対応
- ・日々の暮らしの充実、賑わいの創出
- ・公共交通に対する地域の意識、きずなづくりへの支援

②各地域～主要な鉄道駅を結ぶ

③なるべく利用者が多く見込まれる施設等を経由する

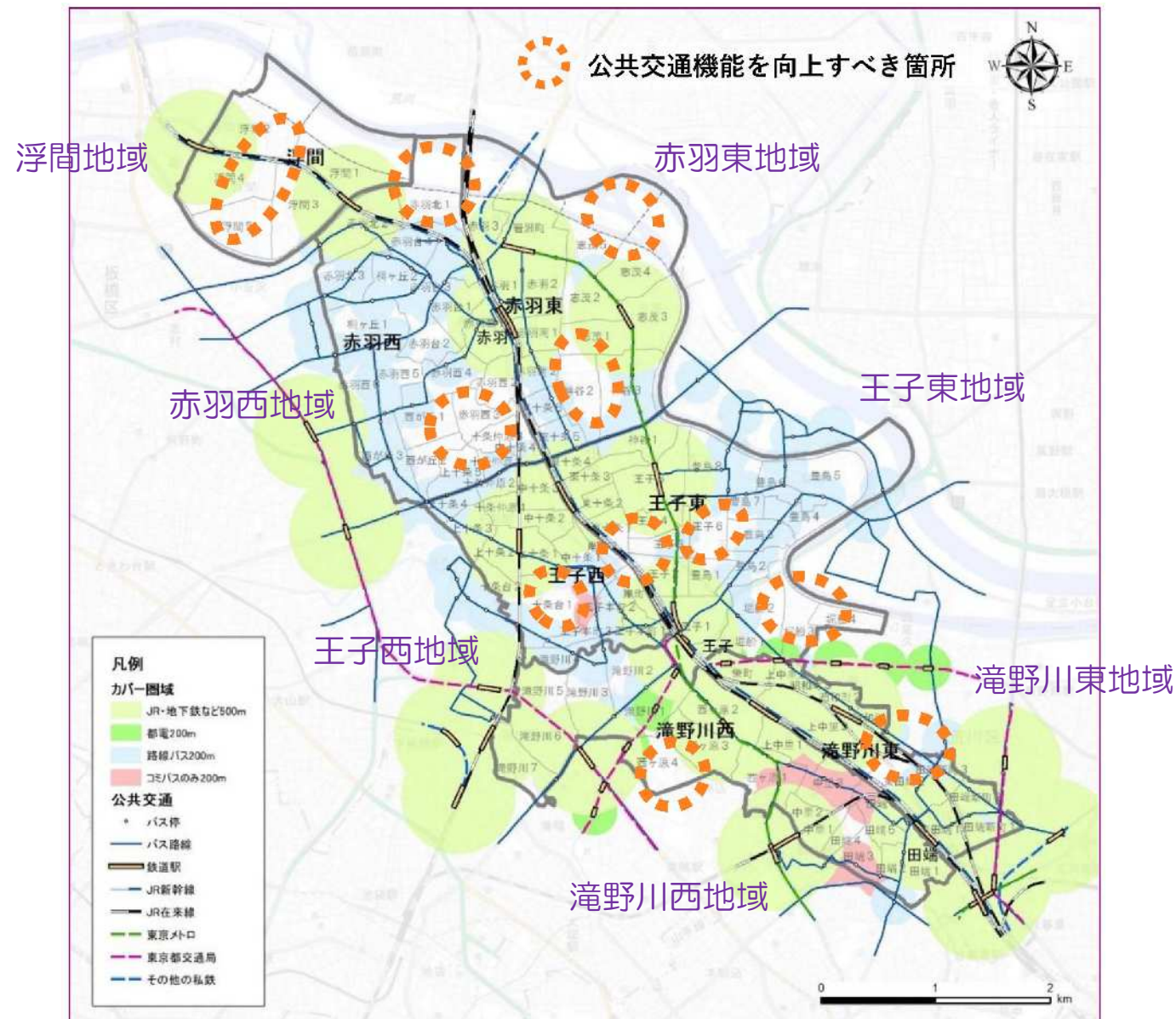
④現行のKバスと同様のバス車両、20分間隔の運行を基本とする

⑤交通規制や道路幅員等の道路状況や、既存バス路線に配慮する

- ・「コミュニティバスの導入に関するガイドライン」(国土交通省)
に基づき路線バスとの競合回避の配慮

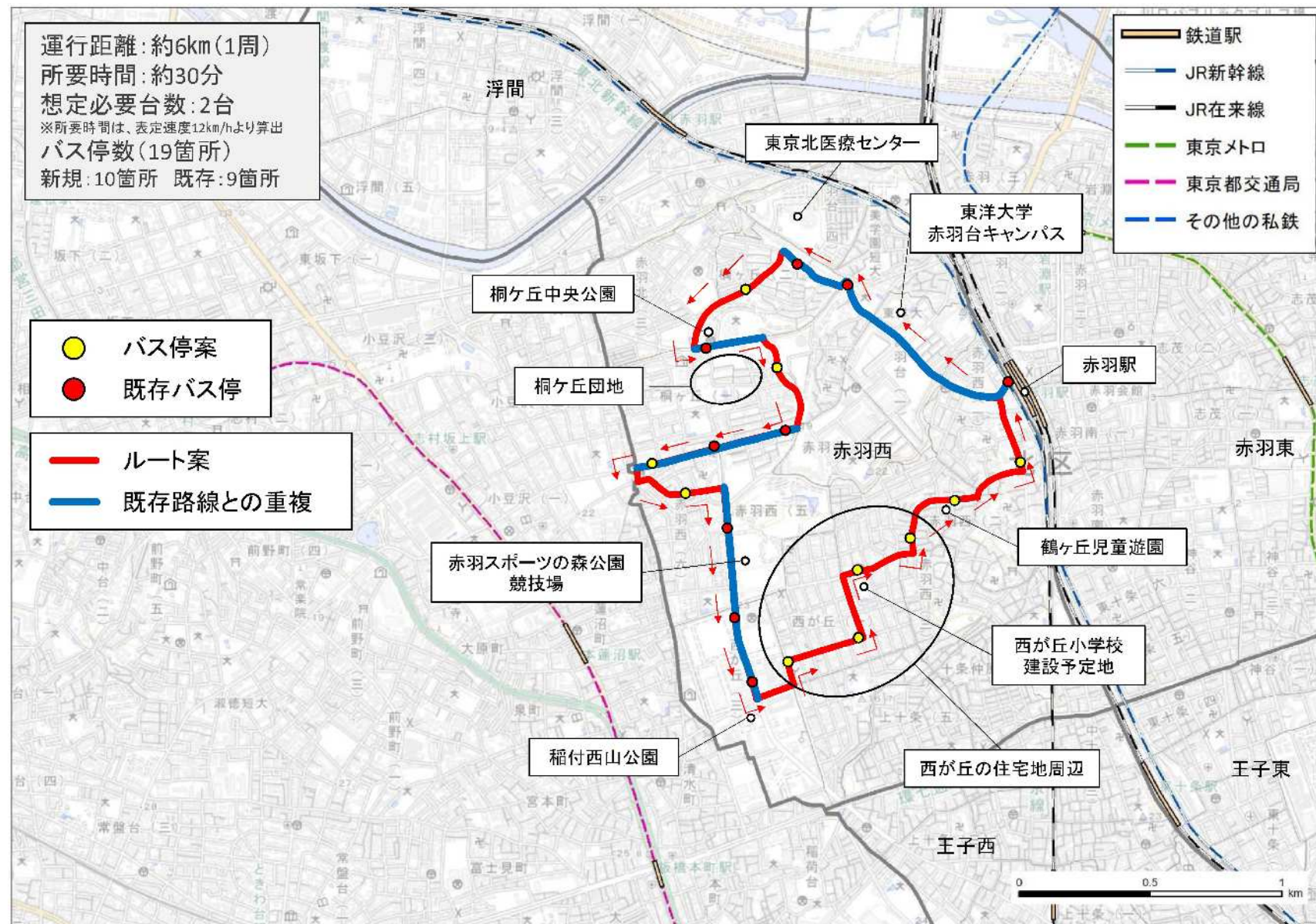
①北区地域公共交通計画の考え方

●公共交通機能を向上すべき箇所



①北区地域公共交通計画の考え方

●コミュニティバス（赤羽西地域ルート案）

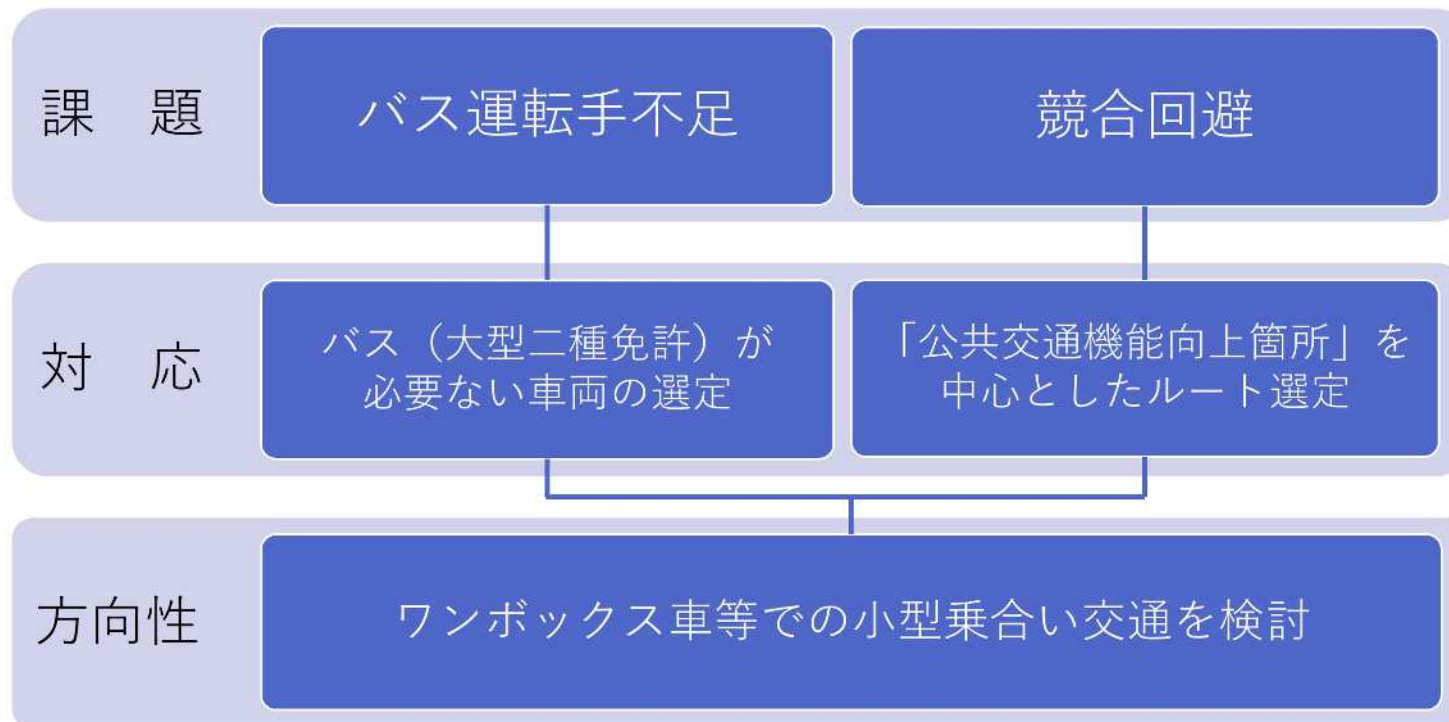


②見直しの方向性

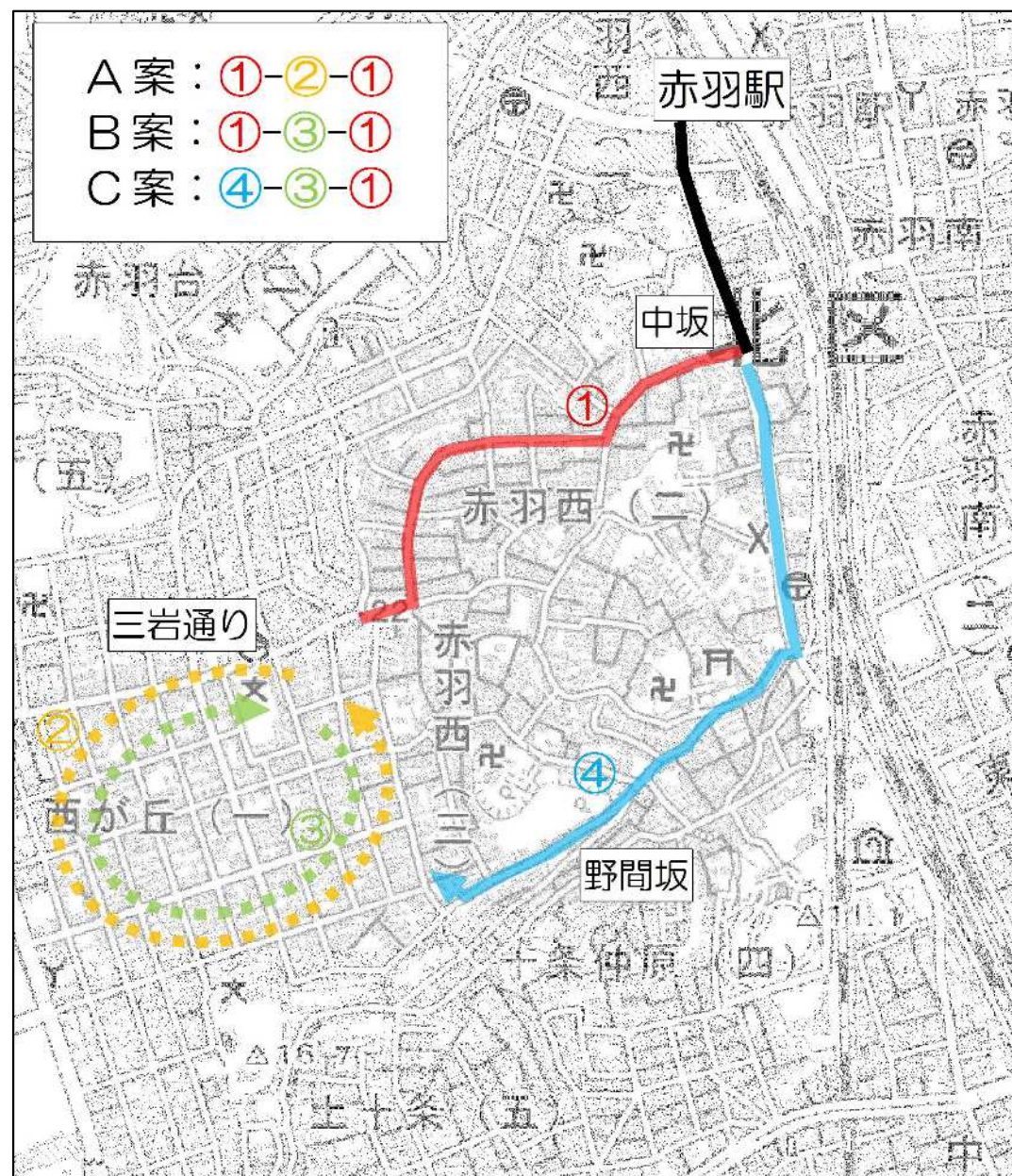
〔検討経緯〕

令和6年12月3日	令和6年度第1回赤羽西地域部会開催
令和7年2月26日	令和6年度第2回赤羽西地域部会開催
令和7年3月25日	令和6年度第3回北区地域公共交通会議開催
令和7年8月 4日	令和7年度第1回赤羽西地域部会開催（書面開催）

〔見直し方針〕



③見直しルート（素案）



④地元住民の意向聴取

〔アンケート（案）〕

【対 象】ルート（素案）利用圏の住民

【内 容】路線定期（定時定路線）、
区域運行（デマンド）等の
運行形態を選択肢とし、
路線の参考としてルート（素案）
を示す。

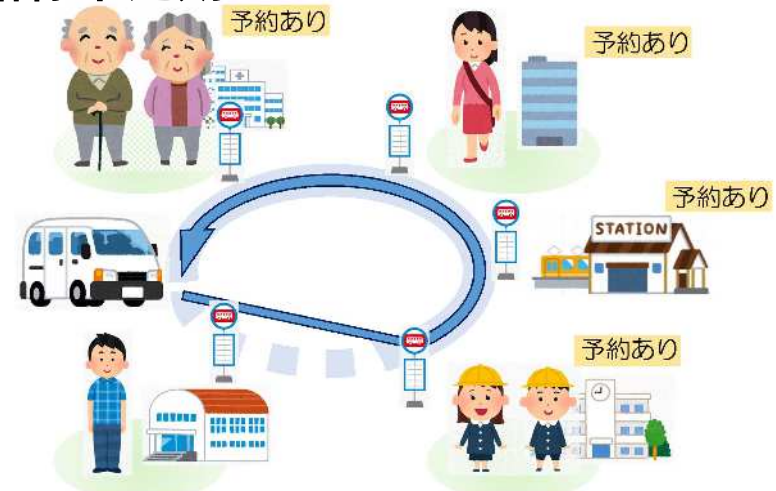
区域運行



路線定期



路線不定期



④地元住民の意向聴取

〔アンケート〕

アンケート調査概要

対象	地域住民
調査方法	アンケート調査票を郵送配布、 郵送またはWEBで回答
調査対象	18歳以上の赤羽西1～6丁目、 西が丘1～3丁目、 十条仲原3・4丁目、 上十条5丁目の住民1,490人
回答者数	452人（回収率30.3%）
調査期間	令和7年9月1日（月）～ 令和7年9月22日（月）

赤羽西地域公共交通等導入に関するアンケート調査

平素より、北区委にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。
 北区では、令和3年に策定した北区地域公共交通計画に基づき、赤羽西地域への公共交通の導入を検討しております。今回、その公共交通の運行計画（案）の作成に向けて、地域の皆様の移動状況や運行形態・ルートについての意向を問うアンケート調査を実施いたします。質問は、全部で37問（所要時間約8分）です。
 回答は個人を特定できない形で収集し、上記の目的以外には利用いたしません。お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和7年9月 北区

<アンケートに関するお問い合わせ先>
 地域公共交通等導入業務委託
 受託者：株式会社エイテック 電話：03-6311-8451 E-mail：at_least_kotsu@kk-atec.jp

このアンケートはインターネットからも回答いただけます。
 下記のアドレスまたは右のQRコードからアクセスしてください。
<https://logoform.jp/form/VNHo/1117073>



1. 回答するご本人について教えてください（全9問）

性別 （任意）	1. 男性 2. 女性 3. 回答しない	居住地	北区_____丁目_____番地 （例）西が丘2丁目21番地
年齢 （該当するもの1つに○）	1. 20歳未満 2. 20歳～39歳 3. 40歳～59歳 4. 60歳～69歳 5. 70歳以上	自動車運転免許証 （該当するもの1つに○）	1. 所持している 2. 所持しているが、白紙返納を考えている 3. すでに白紙返納した 4. 所持していない
住居の形態 （該当するもの1つに○）	1. 持ち家（戸建、マンション） 2. 民間賃貸（マンション、アパート） 3. 公営住宅（都営住宅）		
同居の家族 （該当するものに○）	1. 一人暮らし 2. 配偶者 3. 子・孫 4. 親 5. 祖父母 6. その他（ ）		
職業 （該当するもの1つに○）	1. 学生 2. 会社員・公務員 3. 自営業 4. 会社経営者・役員 5. パート・アルバイト 6. 専業主婦・主夫 7. 無職（定年退職等を含む） 8. その他（ ）		
クルマの保有状況 （該当するもの1つに○）	1. 持っていて、自分で運転可能である。 2. 持っているが、自分は運転できない（しない）。 3. 持っていない。		
自転車の保有状況 （該当するもの1つに○）	1. 持っていて、日常的な利用に問題はない。 2. 持っているが、身体的な理由等により利用する際に不安がある。 3. 持っているが、身体的な理由等により、現在は利用することができない。 4. 持っていない。		

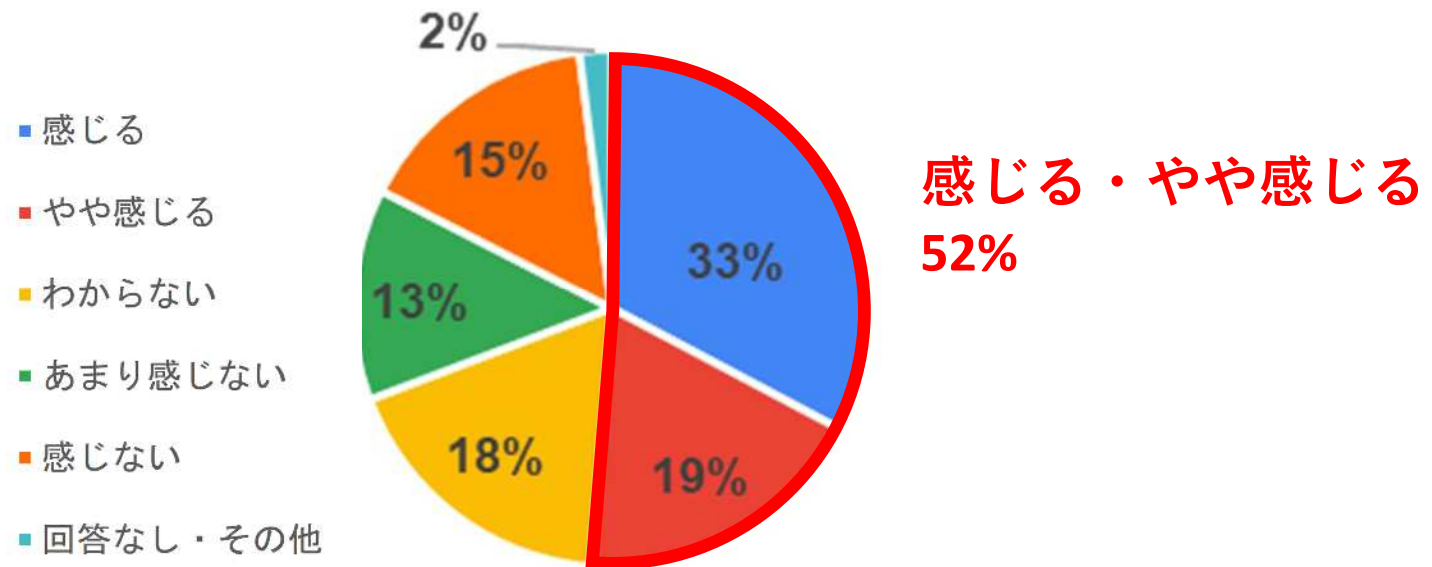
次ページでは、移動状況について質問します。

1 / 4

⑤アンケート調査結果

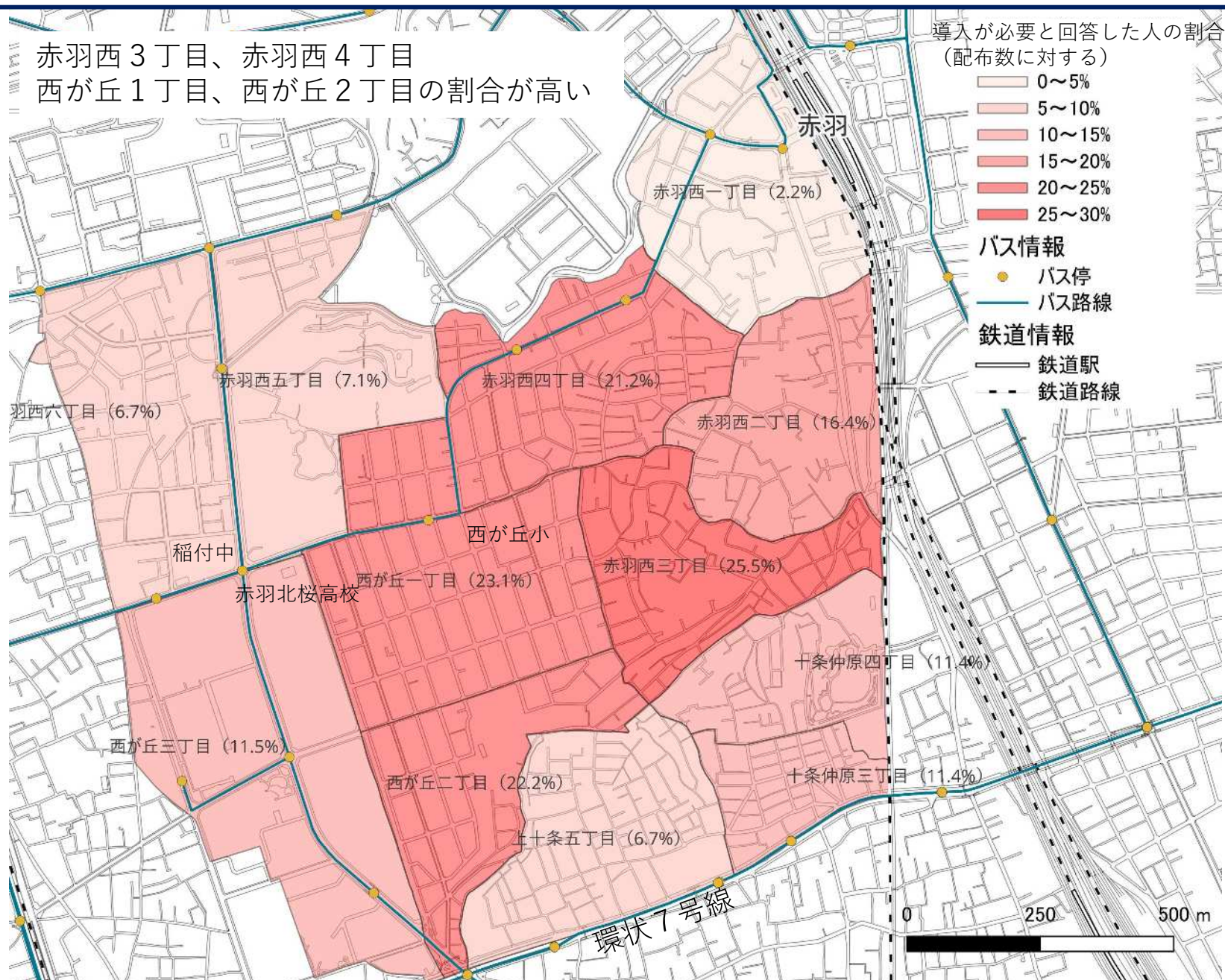
●新たな公共交通の導入の必要性

- 赤羽西地域に新たな公共交通の導入の必要性を感じる人は52%で過半数を上回る。



⑤アンケート調査結果



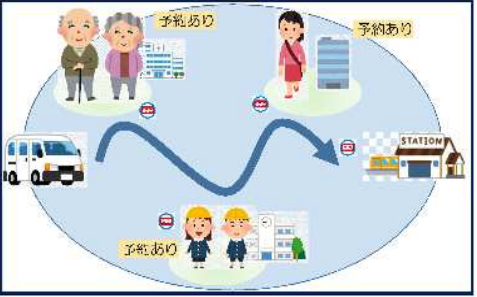
赤羽西 3 丁目、赤羽西 4 丁目
西が丘 1 丁目、西が丘 2 丁目の割合が高い



⑤アンケート調査結果

●アンケート調査結果

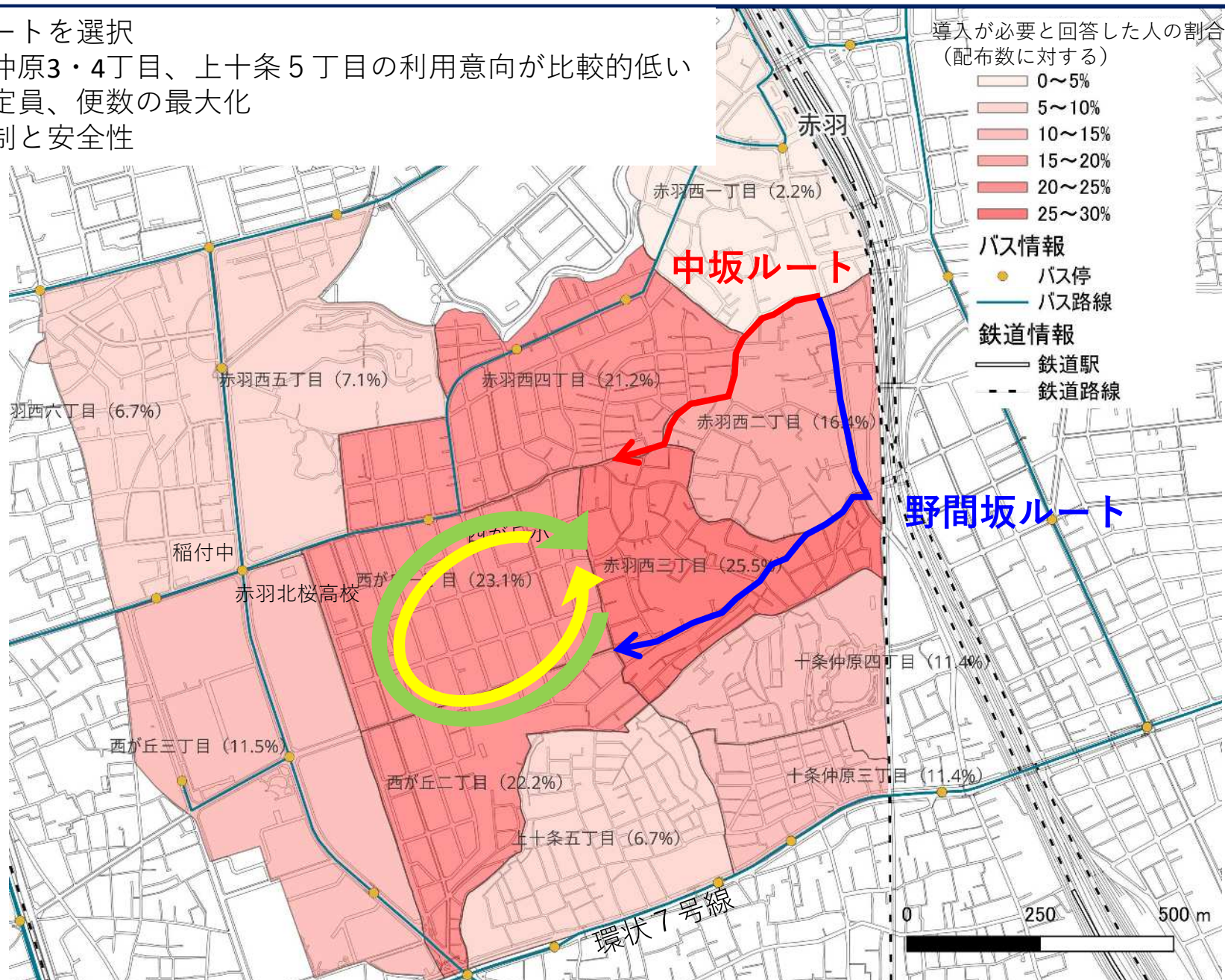
- 新たな交通手段の運行形態については、「**路線定期**」が赤羽西地域に適していると思う人が約73%で最も多い。

	路線定期	路線不定期	区域運行
イメージ			
概要	路線バスのように、あらかじめ定められたルートを決められた時刻に運行する方式。	路線バスのようにバス停で乗降を行うが、予約があった場合のみ運行し、予約がなければ運行しない方式。	タクシーのように、運行ルートは定めず、予約に応じ乗降場所間を最短経路で結ぶ方式。
赤羽西地域に適していると思う人の割合	72.8% (329人)	23.5% (106人)	29.4% (133人)

⑥ルート選定

中坂ルートを選択

- ・ 十条仲原3・4丁目、上十条5丁目の利用意向が比較的低い
- ・ 乗車定員、便数の最大化
- ・ 定時制と安全性

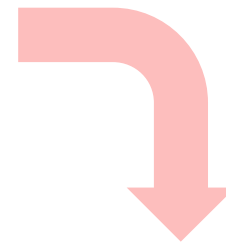


⑥ルート選定

●新たな公共交通が導入された場合の利用頻度（アンケート結果より）

問 5 -④利用頻度

(N= 452)	実数	割合
週6～7日	18	4.0%
週4～5日	35	7.7%
週2～3日程度	78	17.3%
週1日	51	11.3%
月に2～3日	70	15.5%
月に1日以下	106	23.5%
回答なし・その他	94	20.8%



圏域人口：15,782人
(ルート200m内)

利用意向：19.06%

実利用率：3割

(他事例参照)

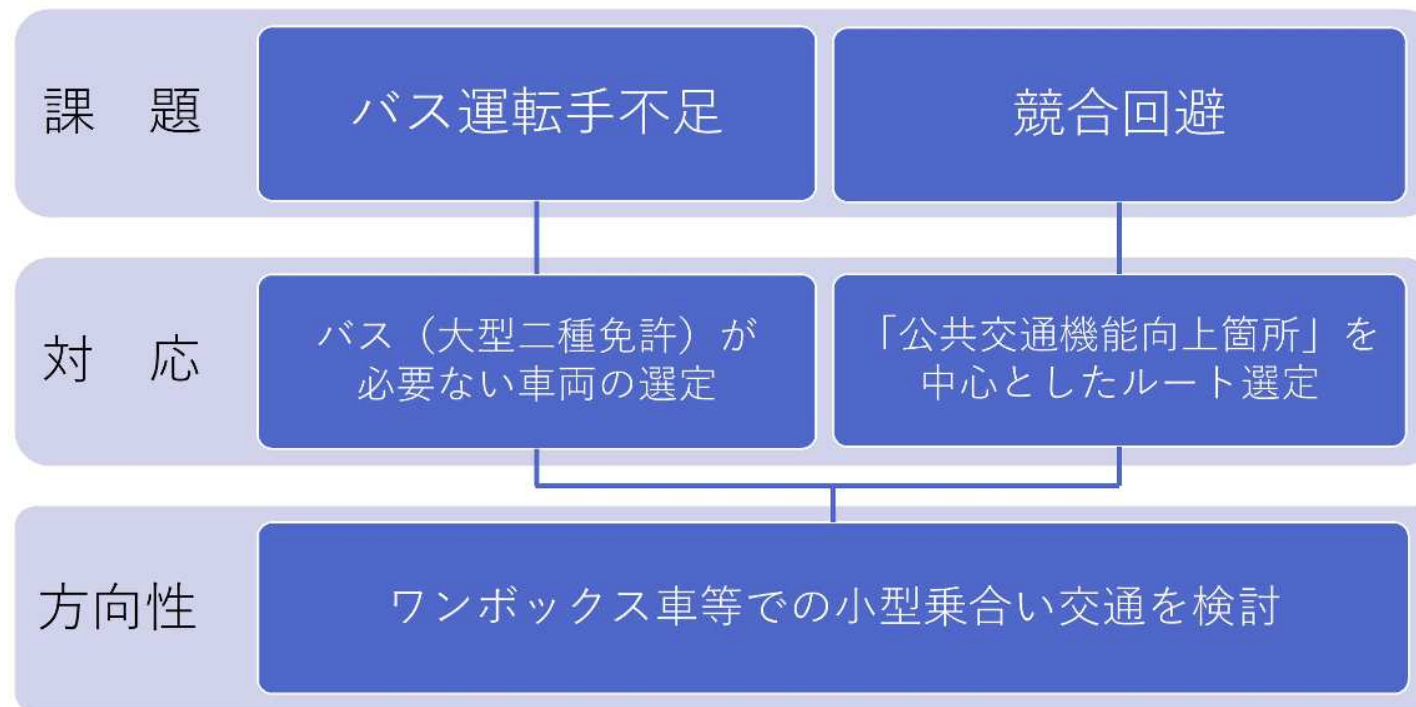
利用実績数÷利用意向数)

利用頻度	割合	年間利用数	想定実利用数
6回/週	1.21%	59,483回	17,845回
4回/週	2.01%	66,093回	19,828回
2回/週	4.43%	72,702回	21,811回
1回/週	2.75%	22,582回	6,774回
2回/月	3.49%	13,219回	3,966回
1回/月	5.17%	9,787回	2,936回
計	19.06%	—	73,159回

73,159回÷365日=約200人/日

⑦車両選定

〔見直し方針〕





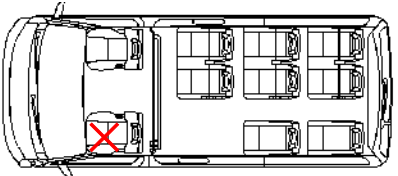
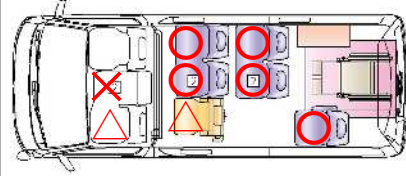
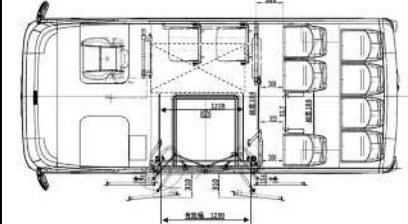



〔要件〕

- ①中坂ルートで運行可能な車両
- ②旅客定員9人（約200人/日÷22便程度）以上
- ※バリアフリー適合（車椅子）は可能な限り確保

⑦車両選定

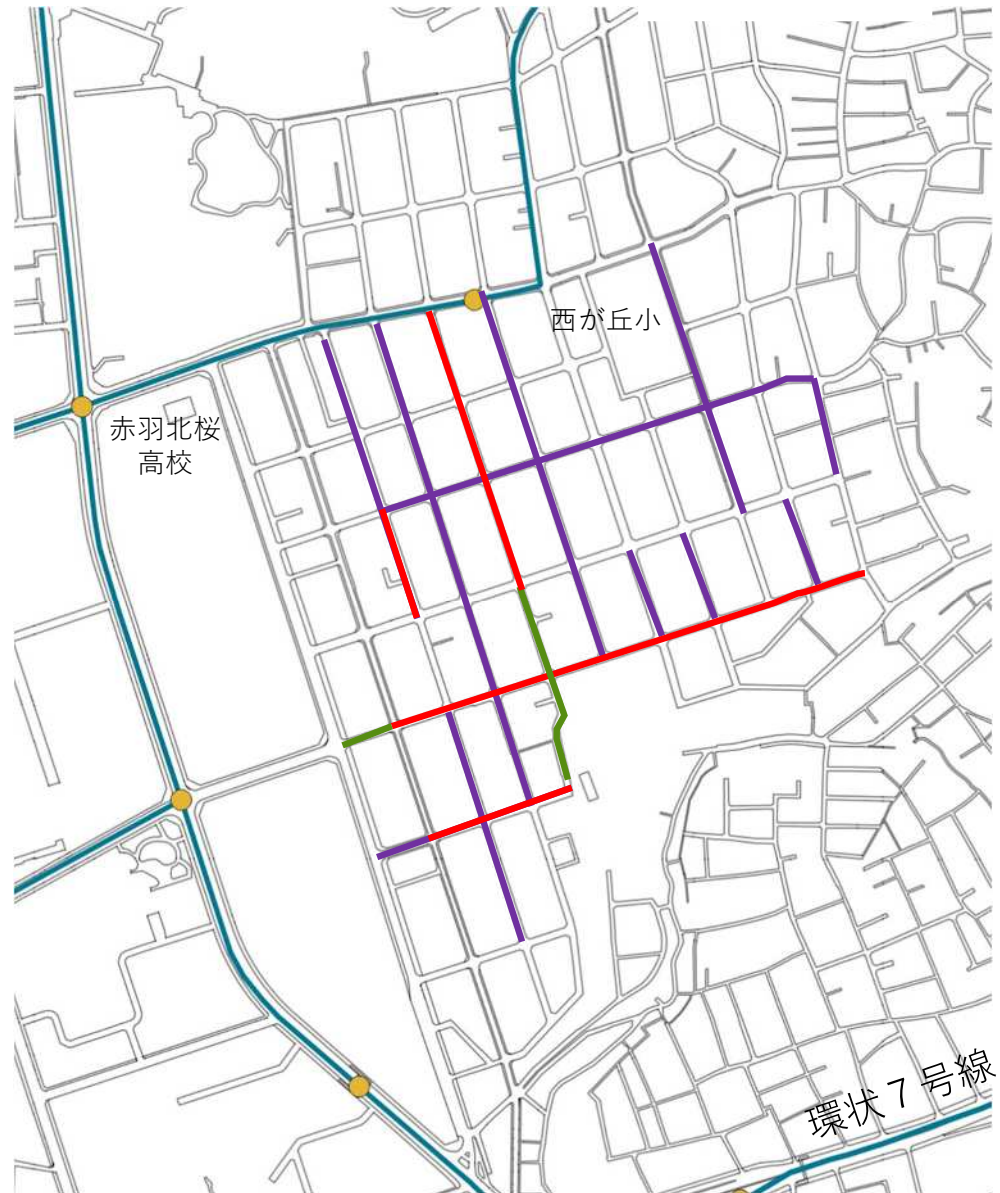
〔候補車両比較〕

	ハイエース (ロングワイドボディ)	ハイエース (ロング・標準ボディ)	E1	e-Palette
モデル				
メーカー	トヨタ	トヨタ	EVモーターズ・ジャパン	トヨタ
全長	4,840mm	4,695mm	5,380mm	4,950mm
全幅	1,880mm	1,695mm	1,900mm	2,080mm
旅客定員	8人(座席8)	5人(座席5+車いす専用1)	9人(座席7+跳上2)	16人(座席4+跳上3+立ち9)
座席配置	 ※DXベース			
バリアフリー	不適合	適合	適合	適合

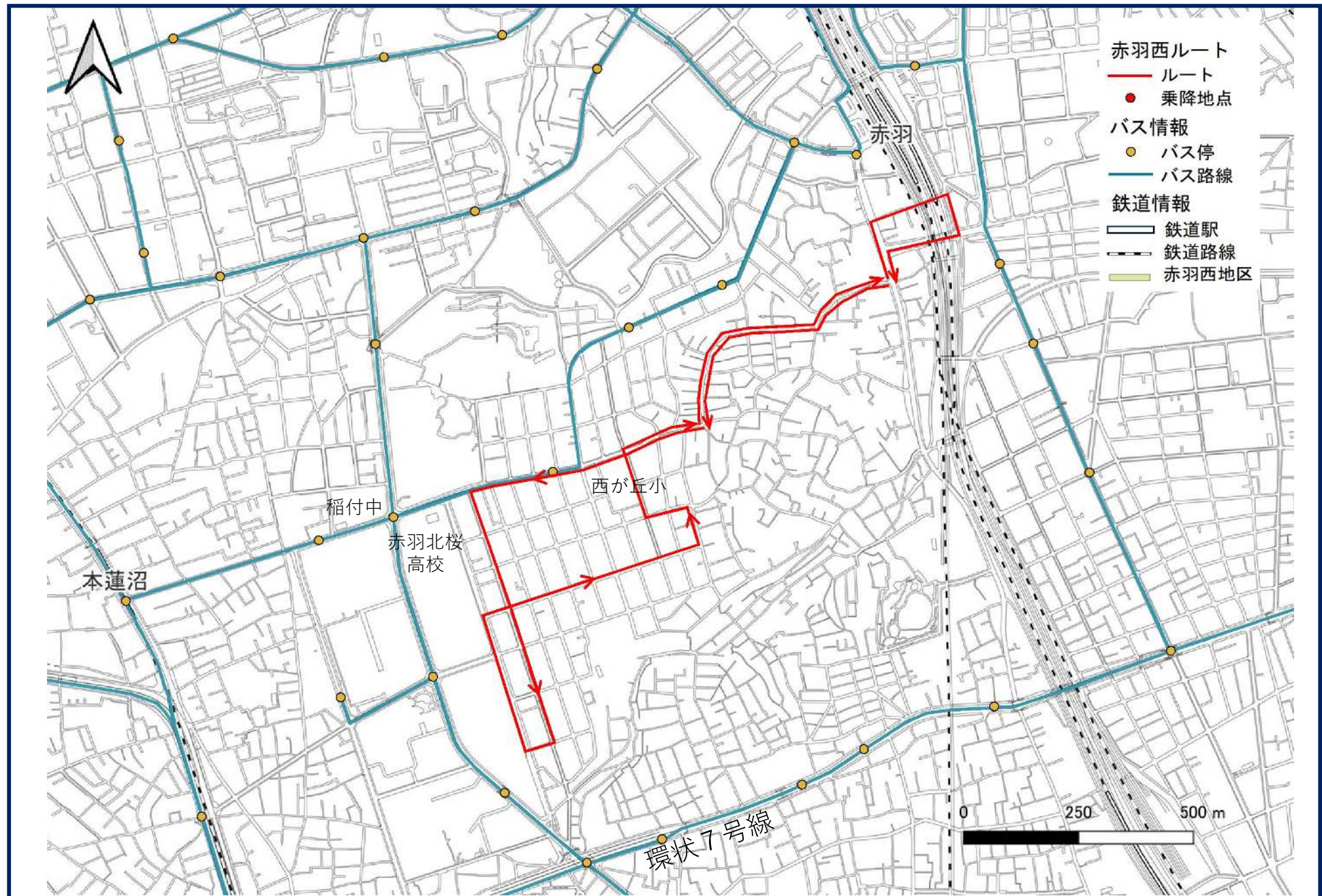
旅客定員やバリアフリー適合等を総合的に比較した結果「トヨタ・e-Palette」を想定してルートを含む具体的な運行計画を検討する。

⑧ルート案について

- 時間規制
- 時間規制+大型規制
- 大型規制



⑧ルート案について



⑧ルート案について

〔ルート案設定の考え方〕

〔諸条件〕

- ・ 1 台で運行
- ・ 9時台～1 9時台の運行
- ・ 2便/時間（約2 2便/日）
- ・ バス停1 5か所程度

- 各地域と主要な鉄道駅である「赤羽駅」を結ぶ
- 付近を運行する路線バスとの競合を避ける
- 交通規制区間や幅員の狭い区間を避ける
（大型車両規制、時間規制等）
- 運行によりカバーされるバス停利用圏ができるだけ大きくなるよう配慮

⑨今後の予定

〔スケジュール〕

令和8年 1月 地元説明会

2月 赤羽西地域部会

地域公共交通会議

令和8年度 運行事業者選定（運行計画（案）の提案）

運行計画（案）作成

試験運行開始